

今後の農業農村開発協力にかかる検討事項

平成18年2月

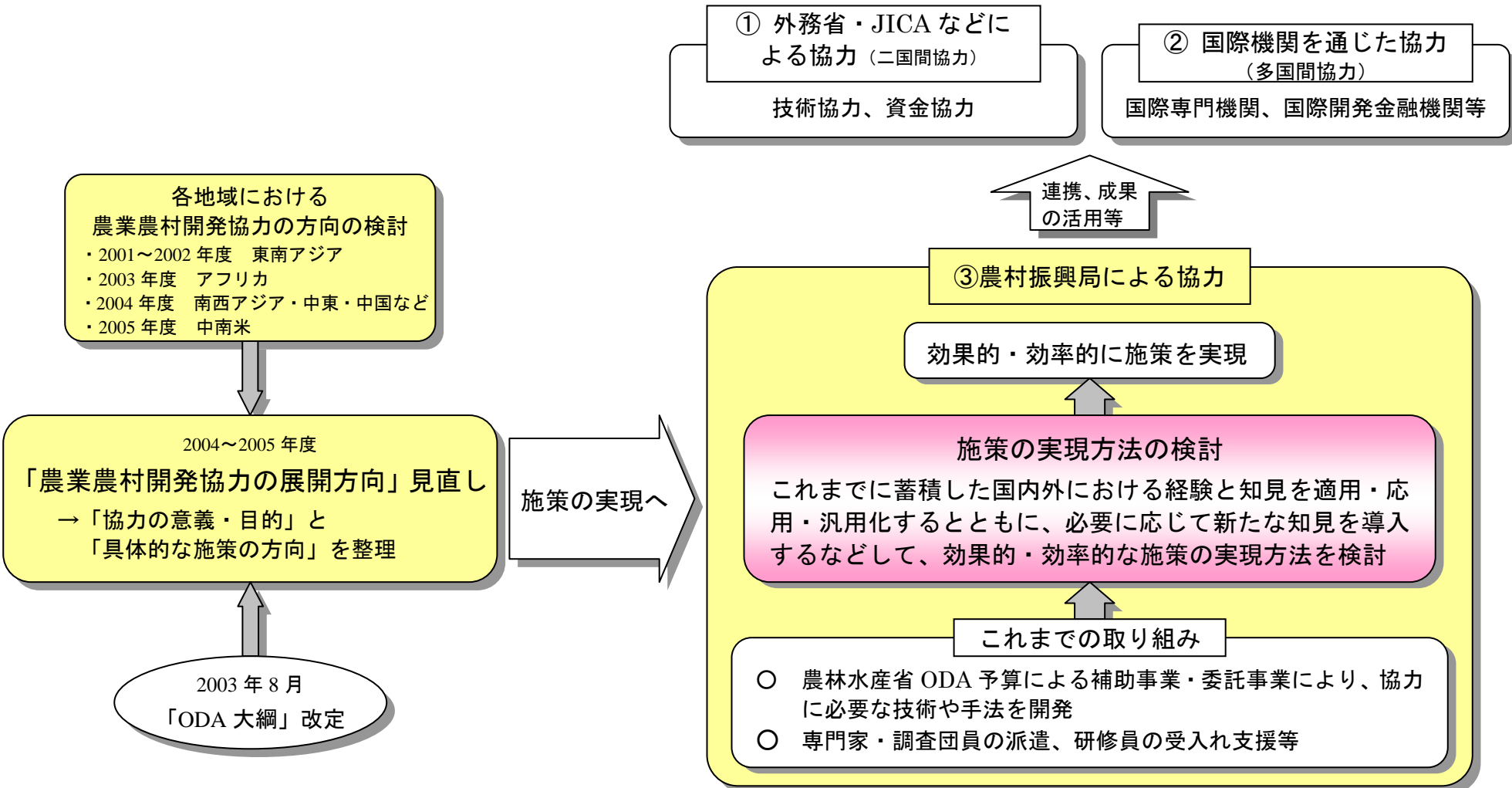
農林水産省農村振興局整備部

目 次

1. 農村振興局による農業農村開発協力	2
2. 農村振興局 ODA 予算による協力の実績	3
3. 今後の検討事項	4
参考： 農村振興局による参加型灌漑管理の実現方法案	5

1. 農村振興局による農業農村開発協力

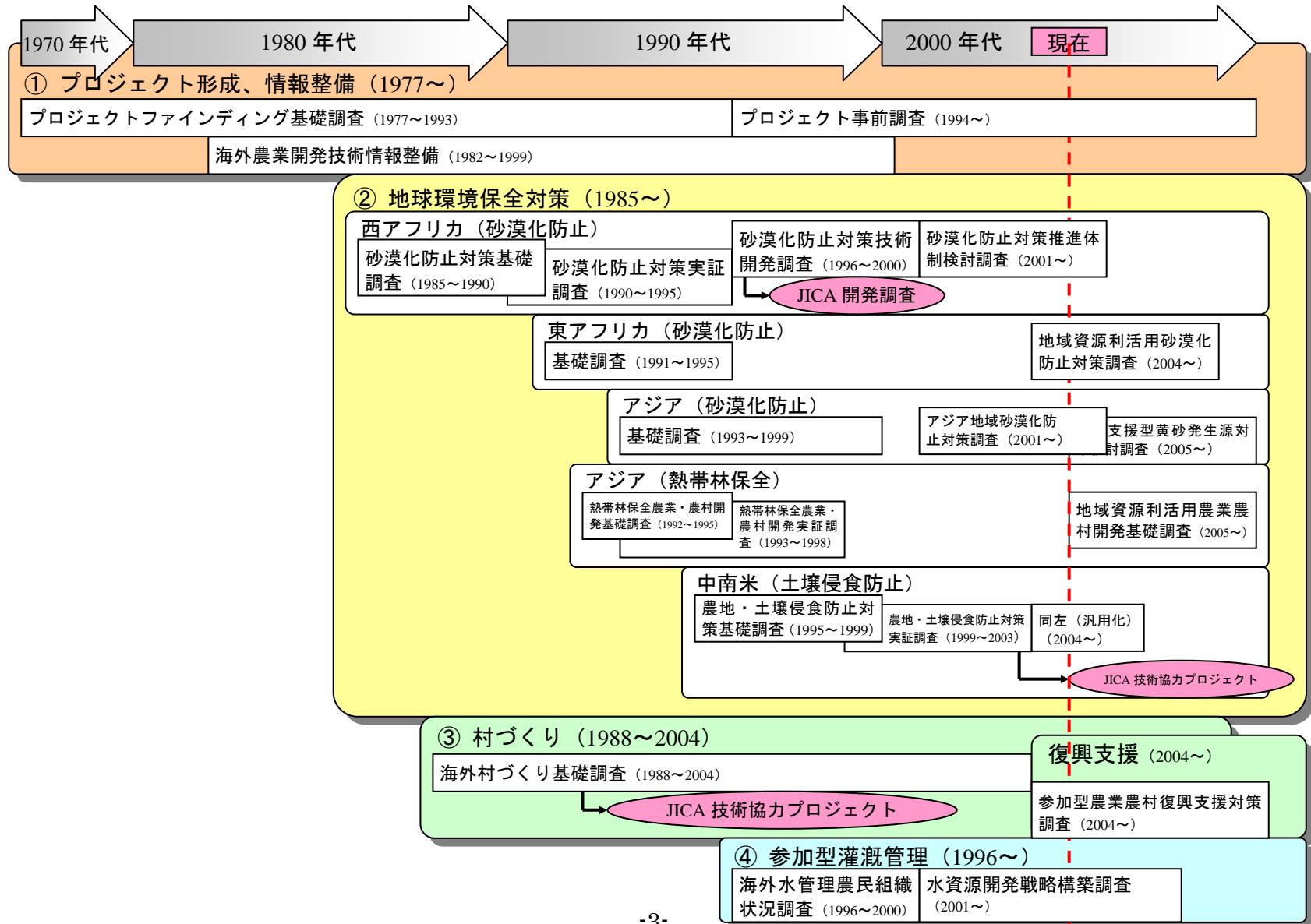
- わが国の農業農村開発分野における国際協力では、①外務省・JICA などによる協力、②国際機関を通じた協力に加え、③農村振興局が農林水産省補助事業・委託事業により、独自に協力に必要な技術や手法の開発などを推進
- 「農業農村開発協力の展開方向」で整理した「具体的な施策」を実現するため、これまでに蓄積した国内外における経験と知見を適用・応用・汎用化するとともに、必要に応じて新たな知見を導入するなどして、効果的・効率的な施策の実現方法を検討する必要



2. 農村振興局 ODA 予算による協力の実績

○ 農村振興局 ODA 予算は 1977 年度から開始

これまでに、①プロジェクト形成や情報整備、②砂漠化防止や土壌侵食防止などの地球環境保全対策、③村づくり協力手法の開発と復興支援への応用、④参加型灌漑管理に関する現況調査や水資源の開発戦略構築、を実施



3. 今後の検討事項

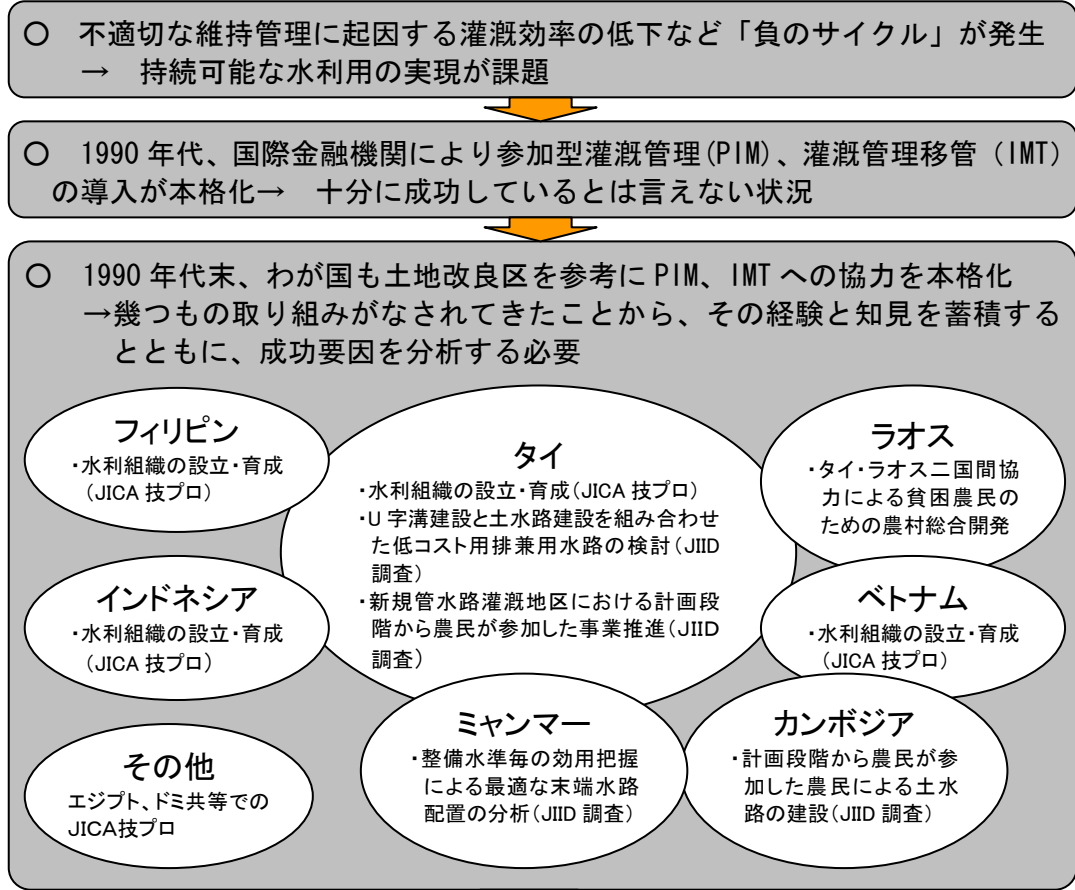
- 「展開方向」で整理した「具体的な施策」を実現するため、
 - ① 農村振興局が有する国内外における経験と知見の整理
 - ② 効果的・効率的な施策の実現方法の検討

農村振興局が有する主な経験と知見、展開方向及び施策の実現方法（案）

国外における主な経験と知見	展開方向	施策の実現方法（案）
<ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクト形成 ○ 情報整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現地 ODA ネットワークへの積極的な関与 ○ 農業農村開発協力体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現地 ODA ネットワークとの意見交換を通じたプロジェクト形成 ○ 蓄積した情報の IT 化とその情報の活用体制の整備
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球環境保全対策（砂漠化防止対策、土壌侵食防止対策、熱帯林保全など） ○ 村づくり ○ 復興支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○ NGO 等との連携強化 ○ 地球温暖化防止対策 ○ 汎用化した農地・土壌侵食防止対策技術 ○ 地域資源を活用した循環型の砂漠化防止対策技術 ○ 村づくり協力手法の応用 ○ 南南協力・広域協力の推進 ○ 農業農村開発協力体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ NGO、大学、既存の農民組織等と広範に連携した農民の自助努力を向上させる総合的な農業農村開発 ○ 地域資源を活用した CDM（クリーン開発メカニズム）事業手法の開発 ○ 緩傾斜部及び平野部農地にも適用可能な土壌侵食防止対策技術の開発（パラグアイ） ○ 半乾燥地域における砂漠化防止対策技術の開発（東アフリカ） ○ 砂漠化防止や土壌侵食防止等の地球環境保全対策への村づくり手法の適用
<ul style="list-style-type: none"> ○ 参加型灌漑管理 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 持続的に維持管理し易い末端灌漑施設整備 ○ 農民水管理組織の育成 ○ 南南協力・広域協力の推進 ○ 農業農村開発協力体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の計画段階から農民を参加させ、農民水管理組織設立や施設の維持管理に対するモチベーションの向上 ○ 成功事例・先行事例を有する国や灌漑技術センターなどの拠点を有する国と協力して、開発の遅れた周辺国に協力

参考： 農村振興局による参加型灌漑管理の実現方法案

注)「参加型灌漑管理とは、灌漑水利用者が水管理におけるあらゆるレベル、あらゆる側面に関わることをいう。」(世界銀行)



農村振興局による取り組み

